

特集

農業がつなぐ 地域と人

11 住み続けられる
まちづくりを



秋晴れの下、目の前に広がる美しい田園風景は、長年にわたり農業を支えてきた農家の皆さんの営みによって大切に守られてきました。

しかし、全国的な傾向と同様に、中津川市でも農業従事者の高齢化や後継者不足が進み、耕作放棄地の増加や中山間地域ならではの営農維持の難しさが深刻な問題となっています。

農地の荒廃は単なる産業の衰退にとどまらず、私たちが親しんできた故郷の風景や地域コミュニティの存続にも大きな影響を及ぼしています。

そうした逆風の中で、自分の人生をかけ、地域の農地を守ろうと汗を流す農家や、中津川の自然と食に惹かれて他地域から移住し、新たに農業の道を歩み始めた人、そしてそれを支える人たちがいます。



お米とこの景色を 次世代に

園原 洋平 さん

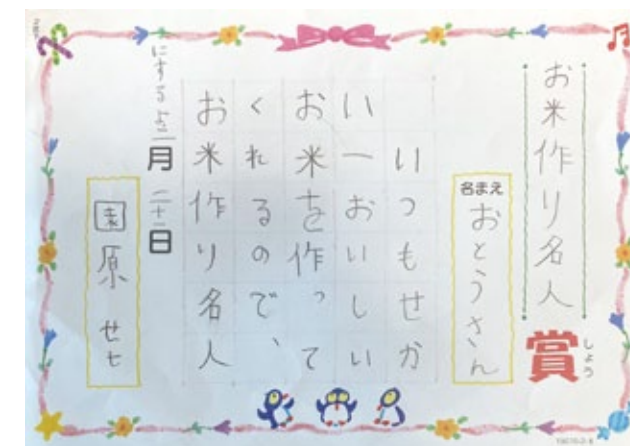
山口地域のお米と美しい風景を守るために、同じ思いを抱く福原さんと共に、法人化に取り組む。

米作りの中で感じた地域の課題

米作りを始めたのは、実家の手伝いからでした。一昨年、父親から田んぼを受け継ぎ、個人事業主として兼業するようになりました。地域の方にも手伝ってもらっていましたが、年齢を重ねるにつれて、徐々に大変になってきますし、農業をやる人も減ってきていると聞き、この地域のお米や景色を残していくために、農業の担い手不足や耕作放棄地の増加をなんとかしなくてはと思い始めました。

お子さんからの贈り物と福原さんとの出会い

ある時、子どもが学校の授業で作った「お米作り名人賞」をくれました。それがすごくうれしくて、「もうやるしかないな」と思えました。一方で、個人の頑張りだけでは限界があり、機械や人手、作業の受け皿を会社として整える必要があると感じていました。そんな中、地域の農業会議で同じ思いを持つ福原さんと出会い、「やるなら今しかない」と決めました。



「作業を終えて、洋平さんと夕飯を食べに行くのが楽しみ」と語る福原さん（写真右）

法人化への道

農業は「大変だけど、仕方なくやる」では続かないと思っています。仕事として成り立たせながら、やっている本人たちが楽しめて、若い人にも「やってみたい」と思ってもらえるような会社になりたいです。法人化にあたっては、わからないことばかりで、1つずつ調べ、判断していくのは正直大変です。その判断が、将来を左右するかも…と不安にもなります。でも、福原さんと「どうやっていこうか」と考えるのも楽しい時間です。

農業の醍醐味

お客さんから「おいしいよ」「もう他のお米は食べられないよ」と言ってもらえたときですね。あとは、福原さんや仲間の人たちと一緒にワイワイ農作業をやっている時間もすごく楽しいです。農業は大変ではありますが、楽しさや大きな達成感を得られています。（園原さん）

今後の目標

「田んぼを任せたい」と考えている方が、安心して相談できる存在になりたい。そのために、丁寧な仕事をし、作業の受託やお米の販売も安定させ、継続できる会社にしていきたいです。そうやって、山口の農業と地域の景色を守り、地域の発展にもつなげていきたいです。



霧ヶ原地区の農地を守りたい

新規就農者
原 圭佑 さん

夏秋トマト研修制度を活用し、令和8年4月に霧ヶ原地区（神坂）で就農



就農のきっかけ

もともとは地域の空いた田んぼを親が管理していて、草刈りなどを手伝っていました。働きながら農業をするには限界があるなど感じていた中で、親が歳を取って、田んぼができなくなってしまうと、この地域が荒れてしまうのではないかと思うようになり、自分が仕事を辞めて田んぼを受け継いでいくことを考え始めました。

その頃、霧ヶ原地区でトマト栽培を始める方が増えたり、トマト栽培ができる土地に空きができたり、いろいろなタイミングが重なり、1年の研修を経て、就農に至りました。

農業のやりがい

作物や自然を相手にしているの、収穫時期は大変ですが、自分で稼ぐということにやりがいを感じています。

今後の目標

会社員と違って毎月決まった収入が得られるわけではないので、しっかりと売上が上がるように頑張っていきたいです。

農業が暮らしを豊かに

私たちの健康にとって大事な食事。そして、その食事を支えている1つが農業です。坂本地区で、そらファームを起業した佐藤さんと、兼業農家の安江さんは、岐阜県女性農業経営アドバイザーとして活動の幅を広げながら、持続可能な農業の形を追求しています。



安江 淳子 さん

農業を始めたきっかけ

最初は夫の実家の畑を少し手伝う程度でしたが、4年程前から本格的に農業を始めました。兼業ではありますが、夫と役割分担をして、農業に取り組んでいます。「子育て」から「野菜育て」になり、いろいろな意味で余裕を持てるようになりました。

女性農業経営アドバイザーへの参加

いろいろな方と関わりながら、農業を学びたいと思い参加しました。参加したことで交流が広がり、農業の考え方を直すきっかけになっています。



そらファーム
佐藤 阿佑美 さん

農業を始めたきっかけ

農業との最初の出会いは、家庭菜園でした。こどもの健康をきっかけに、食べ物や水、日々の暮らしの安全性について関心を持ち、それまで当たり前だと思っていたことを見つめ直すようになりました。自分で学び、考え、納得して選ぶことの大切さを感じたことが、今の農業への思いの原点になっています。

女性農業経営アドバイザーへの参加

マルシェに出店した際などに、他の女性農業経営アドバイザーの方に誘っていただき、参加することになりました。それまで関わりがなかった他地域の農家の方とも関わる機会ができ、作物を栽培する中で大切なことや、販売のノウハウなど、さまざまなことを学んでいます。



お客さんと直接つながるファーマーズマーケット

市が開催しているファーマーズマーケットでは、ただ販売するだけではなく、お客さんから野菜の食べ方を教えてもらうこともあり、情報交換会みたいで楽しいです。また、自分の作った野菜の話をしたり、「おいしかったよ！」と声をかけてもらえたり、とてもやりがいがあります。

女性の農業経営を応援／岐阜県女性農業経営アドバイザーとは？

岐阜県では、女性の農業経営への参画や地域活性化などに貢献する女性農業者を、岐阜県女性農業経営アドバイザーに認定。他の女性農業者のハウスの視察や、県内アドバイザー合同研修など、県内の農業者とつながる活動を行っています。興味のある方はお問い合わせください。
☎ 農政課（☎内線4025）

子育てと農業の両立

こどもたちには、「自分のことは自分で」を基本に、できるまでのサポートはしても、できるようにしながら自分でやる。そうすることで、できる限りのことは自分でやってくれるので、忙しい中でも家事と農業の両立ができています。

魅力あふれる農業を次世代へ

体や健康に配慮して、農薬や除草剤を使わず、品質にもこだわっています。その分、作業や管理は大変ですが、農園やキッチンカーにソーラーパネルを活用するなど、工夫しながら運営しています。また、そらファームでは、季節に応じた農業体験や、農園の敷地を利

用した「そらフェス」を開催しています。農業体験やイベントを通じて、直接お客さんと交流しながら、農業の魅力や、作物の栽培に対するこだわりや思いを伝えていきたいです。



ファーマーズマーケット

☎ 農政課（☎内線4025）

6月～11月までの毎月第2土曜日と、12月の第1日曜日に開催する朝市！旬の新鮮な農産物や、みそ、パン、スイーツなど、中津川市の農産物を使用したおいしい加工品、華やかなガーデニング用花苗など、朝市ならではの安全・安心な品物を生産者の方から直接購入できます。

＼出店者募集中／
出店は無料です。
ご希望の方は農政課へご連絡ください。



日時 11月14日(土) 9時～12時
12月6日(日) 9時～12時
場所 ひと・まちテラス



中津川の自然と農業に魅せられて――

このまちで就農することを決意し、研さんの日々を送る研修生と、目標となる存在であり、指導しながら挑戦を後押しする先輩農業者。そして、認定農業者となり、目標に向かって取り組むご夫婦。日々農業と向き合う皆さんに、中津川や農業の魅力をうかがいました。



しなの まさと
科野 聖人 さん
大桑村出身。夏秋トマト研修制度を活用し、栽培技術の習得に励む。

農業に魅力を感じて

いつか自営業をやりたいと思い、転職を考える中、体を動かしたり、技術を身に付けることができる農業に魅力を感じ、実家から近い地域での就農を検討しました。加子母での研修体験の時に、実際のハウスを見ながら栽培方法を教えてもらい、「自分もこんな農家になりたい」と、加子母での研修を決意しました。

試行錯誤の日々が糧に

研修では、教えられるばかりではなく、いろいろな方法を試し、その結果を踏まえて次はどうするかを自分なりに考えながら学ばせてもらっています。適度な面積で、余裕をもって作業ができ、技術の習得に専念できています。



笠井農園
副代表 **笠井 俊一 さん**
就農6年目。妻の知世さんと一緒に東京から加子母へ移住し、研修を経て、農家に。

東京から中津川への移住

地方移住を考え、真っ先に思い浮かんだのは、自分が育った場所です。友人も多い福島県でした。そこで、東京都内にある「ふるさと回帰支援センター」へ移住の相談に行ったところ、トマト栽培の研修のチラシが目にとまり、岐阜県のブースへ立ち寄りしました。いろいろな話をうかがう中で、夏秋トマトの産地に興味を持ちました。県職員の案内で、岐阜県内の複数の産地を見学した際、研修制度の内容や栽培方法、ハウスと山並みの風景がいいなと思い、加子母での就農を決めました。

地方での農家生活

最初はスローライフをイメージしていた、家庭菜園をしたり、採れたトマトで料理をしたり、DIYをしたりと思っていたいましたが、想像とは全く違いました(笑)



今後の目標

それでも、お互いの生活リズムが合わず、夫婦で一緒に食事をするのが週に数回程度だった東京での生活に比べると、今は3食一緒に会話も増え、楽しく生活できています。

2人での作業なので、面積を増やしていくというよりは、同じ面積の中で、どれだけ収穫量を増やせるかが目標です。プライベートでは、いくつか家を建てたいなと思っているので、その夢に向かって頑張っています。

新たな暮らしをサポートする移住定住コーディネーター

就農などをきっかけに、中津川への移住を考える方にとっては、「どこに住むか」「地域になじめるか」など、暮らしの不安も大きな課題です。市では、移住定住コーディネーターが、中津川での新しい暮らしと一緒に考え、住まい・仕事・地域とのつながりづくりを、トータルでサポートしています。



住まい探し

空き家情報バンクの紹介や、市営住宅の担当窓口への案内など、希望に合った住まい探しをサポート



地域との橋渡し

集落支援員を紹介し、地域とのつながりづくりをお手伝い。区費や地域の行事、暮らしのルールなども丁寧にご案内



関係機関との連携

ワーカーサポートセンター、商工会議所、JAなど、さまざまな関係機関をご案内し、移住後の暮らしを見据えて一体的にサポート

NEW
令和8年度から **空き家に住もう応援事業補助金**

市内の**空き家**を取得・改修する
新婚世帯、子育て世帯、移住者を
応援します！

補助額
取得 30万円
改修 工事費用の2分の1 (上限50万円)

※予算額に達した時点で受付終了となります。
※「改修」の場合は、賃貸物件の所有者も対象です。
対象や条件など、詳しくは二次元コードから
☎ 地域づくり協働課 (☎内線4507)



大切なのは技術とチャレンジと地域とのコミュニケーション



かしも健康とまと村
塾長 **所 隆二 さん**

研修では、技術はもちろんですが、1人の農家として自立し、経営していける力を身に付けることを大切にしています。そのために、研修生自らが考え、判断し、野菜を育てる喜びや魅力を感じてもらう。また、小さな産地だからこそ、地域の一員として、コミュニケーションを大切にする考えも養っています。農業は自然が相手であるため、大変厳しい仕事です。だからこそ、自分の手で育てたものを収穫し、「おいしい」と言ってもらえたときは本当にうれしいものです。新たなスタートには不安は付きものですが、少しでも農業に興味があればお声掛けください。

新規就農を応援

夏秋トマト研修制度

☎ JAひがしみの 営農部 (☎78-0137)

夏秋トマトで新規就農を目指す方を対象に、実際に栽培しながら技術・知識を習得していただくとともに、就農までのさまざまな支援が受けられます。また、栽培体験や短期研修も随時受け付けています。詳しくはJAひがしみのホームページをご覧ください。



新規就農者を対象とした支援制度

新たに農業で生計を成り立たせようとする方や、農業経営における認定の取得を目指す方などを対象に、技術習得中の研修生や、新たに経営を開始する場合に、資金交付が受けられます。詳しくは「ぎふ就農ナビ」をご覧ください。

